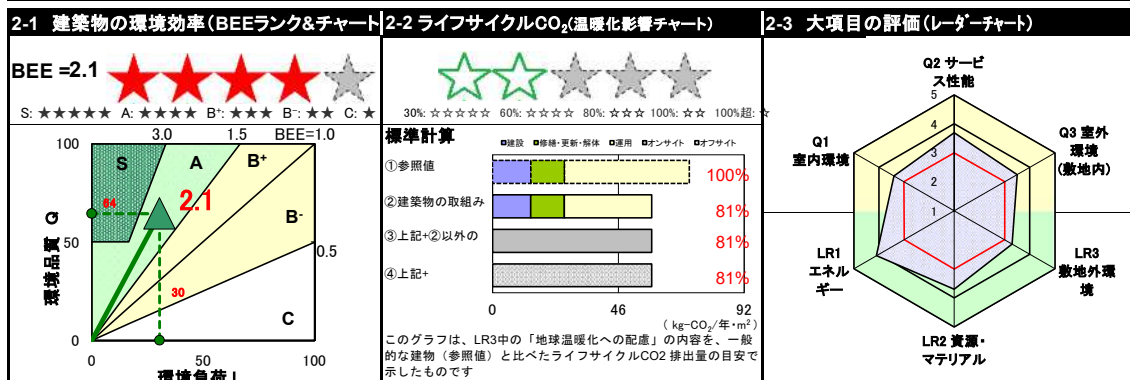
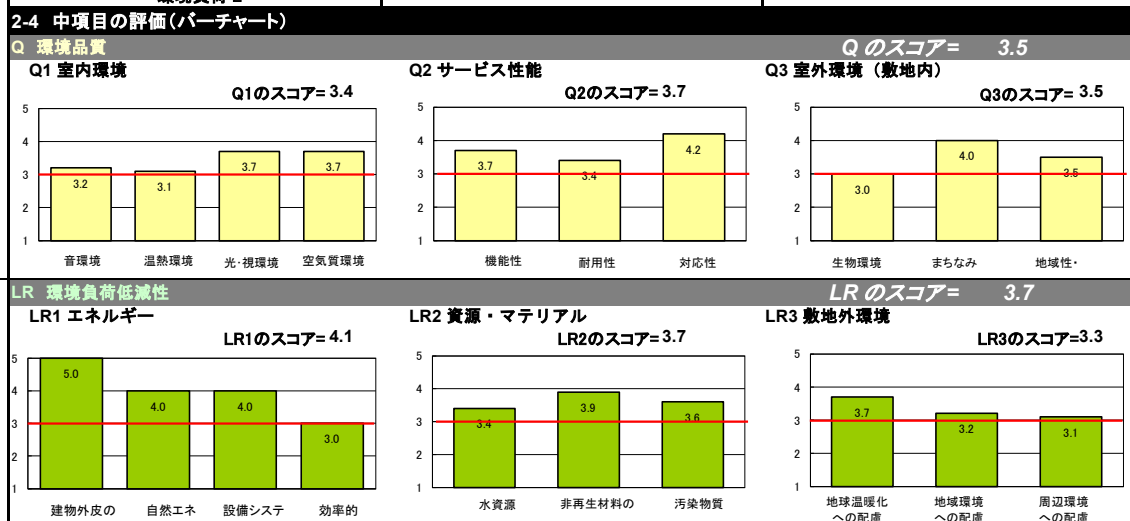


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新案)2016年版+あいち版手引き I 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人日本福祉大学 東海キャンパス拡張事業	階数	地上3階 地下0階
建設地	東海キャンパス拡張事業(建設)1-1-1 (建設地)建設地(建設)1-1-1 (建設地)	構造	SRC造 一部 S造
用途地域	近隣商業地域、都市機能誘導区域	平均居住人員	1,600 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年11月 予定	評価の実施日	2026年10月2日
敷地面積	25,686 m ²	作成者	中澤 宣人
建築面積	5,117 m ²	確認日	2026年10月2日
延床面積	12,409 m ²	確認者	奥村 朋孝



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.7	3.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		0.0 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.8	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
学校法人日本福祉大学 東海キャンパス拡張事業

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.5	
Q1 室内環境					0.40				3.4	
1 音環境				0.1	3.2	0.15	-	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40				
1.2 遮音				0.4	3.2	0.40				
1 開口部遮音性能					1.0	0.30				
2 界壁遮音性能			吉野石膏 ハイパーウォールZ・W I (TLD-52)相当		5.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			サンゲツ NT-700(LL-55)相当		4.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.20				
1.3 吸音			天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペット		4.0	0.20				
2 温熱環境				0.3	3.1	0.35	-	-	-	3.1
2.1 室温制御				0.5	4.0	0.50				
1 室温			冬期22℃、夏期26℃		3.0	4.0	0.60			
2 外皮性能			窓SC=0.26、窓U=3.34、外壁他U=0.75		3.0	4.0	0.40			
3 ゾーン別制御性					3.0	-				
2.2 湿度制御					3.0	1.0	0.20			
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.30			
3 光・視環境				0.2	3.7	0.25	-	-	-	3.7
3.1 昼光利用				0.3	2.4	0.30				
1 昼光率				3.0	2.0	0.60				
2 方位別開口					-					
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40				
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30				
1 昼光制御			ブラインド+庇		5.0	4.0	1.00			
3.3 照度			机上で700lxを確保		3.0	4.0	0.15			
3.4 照明制御			1作業単位で照明制御		3.0	5.0	0.25			
4 空気質環境				0.2	3.7	0.25	-	-	-	3.7
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50				
1 化学汚染物質			全面的にF☆☆☆☆の建材を採用		3.0	4.0	1.00			
4.2 換気				0.3	3.0	0.30				
1 換気量					3.0	3.0	0.33			
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.33			
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20				
1 CO ₂ の監視					3.0	3.0	0.50			
2 喫煙の制御			建物内禁煙		3.0	5.0	0.50			
Q2 サービス性能				-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 機能性				0.4	3.7	0.40	-	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	-	-				
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-				
3 バリアフリー計画			独自		3.0	3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				0.3	3.5	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	2.0	0.50			
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-			
3 内装計画			内装コンセプト、内観パースを作成		3.0	5.0	0.50			
1.3 維持管理				0.3	5.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			トイレの床・壁には防汚性の高い建材を使用		3.0	5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保			付属棟としてリサイクルセンター・ゴミ置場を計画		-	5.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				0.3	3.4	0.31	-	-	-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.9	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			②		-	3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			フッ素樹脂塗装:30年以上		-	5.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			クロス:20年、タイルカーペット:20年		-	5.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			上位3種の2種類以上にB以上を採用し、Eは不使用		-	5.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23			
2.4 信頼性				0.1	3.6	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備			ダクトは吊配管とし、GHP・EHPに系統分け		3.0	5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備					3.0	3.0	0.20			
3 電気設備					3.0	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.20			
5 通信・情報設備			精密機械の地下空間への設置はない		3.0	4.0	0.20			

3 対応性・更新性				0.2	4.2	0.29	-	-	-	4.2			
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.6	0.31	-	-	-				
1	階高のゆとり	階高 4.0m		-	5.0	0.60	-	-	-				
2	空間の形状・自由さ	0.1≦壁長さ比率<0.3		3.0	4.0	0.40	-	-	-				
3.2 荷重のゆとり				3.0	4.0	0.31	-	-	-				
床:2.900N/㎡以上													
3.3 設備の更新性				0.3	4.0	0.38	-	-	-				
1	空調配管の更新性	構造を痛めることなく修繕、更新可能 点検口・PSから、仕上材を痛めることなく修繕可能 点検口・PSから、仕上材を痛めることなく修繕可能 屋上に仮設・バックアップスペースを確保 屋上に仮設・バックアップスペースを確保		-	3.0	0.17	-	-	-				
2	給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17	-	-	-				
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-				
4	通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-				
5	設備機器の更新性		3.0	4.0	0.22	-	-	-					
6	バックアップスペースの確保		3.0	4.0	0.22	-	-	-					
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	3.5				
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0			
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0			
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	4.0	0.50	-	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.7			
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.1			
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.59	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0			
2 自然エネルギー利用				トップライトの採用	3.0	4.0	0.20	-	-	4.0			
3 設備システムの高効率化				BEI=0.7	3.0	4.0	0.30	-	-	4.0			
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0		
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-			
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-			
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-			
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-			
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-			
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	-	3.7		
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4		
1.1 節水					3.0	4.0	0.40	-	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-			
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9		
2.1 材料使用量の削減			② 独自			鉄筋トラス付きデッキとハイベスを使用	-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	5.0	0.20	-	-	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自		LGS+ボードの納まり、配管・配線が躯体に打ち込まれていない	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68	-	-	-	-		
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					-	5.0	0.50	-	-	-	-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境					-	-	0.30	-	-	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			①		-	3.7	0.33	-	-	-	-	3.7	
2 地域環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	3.2	
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	4.0	0.25	-	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-		
3 交通負荷抑制			独自		-	5.0	0.25	-	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	5.0	0.25	-	-	-	-		
管理用車両の搬入路を計画 付属棟としてリサイクルセンター・ゴミ置場を計画													
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-		
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-		
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	-		
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	-		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	-		
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	4.0	0.70	-	-	-	-		
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	-		

重点項目スコアシート

学校法人日本福祉大学 東海キャンパス拡張事業

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.8
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 学校法人日本福祉大学 東海キャンパス拡張事業

計画上の配慮事項	
総合	土地区画整理事業内に計画する大学の拡張工事である。 外観は隣接する既存棟と統一感を持たせ、調和を図った。外構は周辺環境に配慮し、公園と一体利用ができるように計画し、利用者の快適性・居住性の向上を図った。 高効率設備の採用による省エネ設計や水・材料等の省資源への取組みで地球環境にも十分配慮した計画としている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建築材料を使用し、換気量は30m ³ /h・人を確保するなど、空気質環境の向上に配慮している。
Q2 サービス性能	階高や床荷重に余裕を持たせたフレキシビリティに配慮している。 付属棟として、リサイクルセンター・ゴミ置場を計画し、維持管理・清掃性の向上に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	外観の色彩や位置の配慮を行っている。また外観パースを作成して景観検証を行うなど、まちなみに配慮している。 東西の点検用歩廊下を歩行空間として活用することで、歩行者の暑熱環境を緩和する計画としている。
LR1 エネルギー	高効率な設備システム、LED照明を採用し、省エネルギーに配慮している。 またトップライトを採用し、自然採光を取り入れる計画としている。
LR2 資源・マテリアル	節水器具、リサイクル資材を採用し、省資源に配慮している。
LR3 敷地外環境	十分な駐車場・駐輪場を確保し、交通負荷抑制に配慮している。 バス進入路を駐車場出入口とは別に計画することで、送迎時の渋滞・事故を緩和する措置を講じている。
その他	特になし。